

平成29年7月6日

NHK広報局

7月会長定例記者会見要旨

Q. 九州北部の豪雨について

A. (会長) 九州北部の記録的な豪雨では、連絡が取れない方がいるほか、各地で土砂崩れや河川の増水による被害が相次いでいる。現在も救助活動が続けられており、被害の全容もまだわかっていない。NHKとしては、被害状況や今後の雨の降り方について、きめ細かく伝えるとともに、被災した方々に必要な情報を届けていきたい。NHKは、きのうからテレビやラジオで大雨関連のニュースを継続して放送している。現地の放送局からも随時、全国放送を地域向けの放送に切り替えて関連ニュースをお伝えしている。氾濫の危険性の高い河川を示して、リアルタイムに解説する、新しい取り組みも始めた。さらに、インターネットで放送の同時提供を行い、避難していてテレビが見られない方にも最新の情報をお伝えしている。この同時提供では、全国放送で関連ニュースを放送していない時間も、福岡放送局が放送している関連ニュースを提供している。時間がたつにつれ、被害の深刻さが明らかになってきている。NHKでは、東京の本部が現地局を支援する形で、ライフライン情報もお伝えしている。被災地域の方々には、テレビ、ラジオ、インターネットを通じて最新の情報を確認し、今後の避難や救援活動に役立てていただきたい。

Q. 子会社の配当について

A. (会長) 子会社の株主総会がすべて終了し、配当も確定した。去年、配当に関する考え方を見直し、大型の配当も平成28年度に引き続き実施した。その結果、子会社の配当総額は84.1億円で、このうちNHKが受け取る総額は56.3億円、いずれも過去最高額だ。今後も、NHKグループとして視聴者に還元できる施策に向けた投資や、NHKの財政に貢献する積極的な配当を行うことで、子会社の配当可能原資を適切にコントロールしていく。なお、関連会社1社を

合わせると、配当総額は88.6億円で、NHKの受け取り総額は、58.5億円となる。

(詳細は報道資料参照)

Q. 「ABUロボコン2017 東京大会」について

A. (会長) 今年で16回目となる「ABUロボコン」が8月27日、8年ぶりに東京で行われる。NHKなどが加盟するABU(アジア太平洋放送連合)が主催し、19の国と地域から選抜された20チームが参加する。今年の競技課題は、「ランディング・ディスク」。ウレタン製のディスクをロボットが投げ合い、速さと正確さを競う。大会の様子は世界に向けてインターネットでライブ配信するほか、総合テレビでも9月18日に放送予定。

(詳細は報道資料参照)

Q. 受信料制度等検討委員会の答申(案)概要について

A. (会長) 放送と通信の融合の中で、NHKがどういう立ち位置で視聴者の皆さまにより良い放送・サービスを提供していくかが最大の課題だ。7月末までに諮問1号の答申が出てくると期待している。第2号、第3号についても7月中には答申案が出され、意見募集を実施すると聞いている。NHKの考え方を視聴者の皆さまにご納得いただける形で、今から最善の努力をして取り組んでいきたい。

Q. インターネットでの同時配信は、本来業務という認識か

A. (会長) NHKとしては放送が太い幹で、インターネット活用業務は放送を補完し、効果を高めるものであるという考え方に変わりはない。

(以上)